

大学の世界展開力強化事業
東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した
大学間交流プログラム

タイ 歯科研修プログラム 2013

リトリート 2013

Dental Training Program 2013 in Thailand
Retreat 2013 in Rayong



2013 年 8 月 29 日～9 月 10 日



目次

	ページ
I. 開催概要	2
II. 参加学生募集要項	4
III. 事前研修	6
IV. 研修日程	8
V. 日本文化紹介プログラム	13
VI. 研修風景 (写真)	14
VII. 学生によるレポート (日本語)	57
VIII. 学生によるレポート (英語)	68
IX. アンケート結果	80
X. タイ人学生のアンケート結果	84
添付資料 1 初級タイ語テキスト	85
添付資料 2 タイ文化理解スライド	87
添付資料 3 危機管理テキスト	90
添付資料 4 研修アンケート	92

I. 開催概要

『タイ歯科研修プログラム 2013』

1. 研修期間

2013 年 8 月 29 日（木） ～ 9 月 10 日（火）

2. 研修目的

- ・タイの歯科保健システムや歯科保健状況を理解する（地域歯科保健所の見学）
- ・タイの歯科医療について理解する（大学病院歯科診療の見学）
- ・タイの歯学教育について理解する（臨床実習の見学、歯学部講義の受講）
- ・タイの歯学部学生や教員との共同作業・交流を通して、英語によるコミュニケーション能力を向上させる（学生間交流、リトリート）
- ・タイの歴史、文化、習慣、言語などを理解する（異文化理解・保健福祉施設の見学）
- ・タイの日本語学科大学生に対し、日本文化の紹介を行うことで、日本文化への理解を深める（日本文化紹介プログラム）
- ・バンコク在留邦人幼児が通う幼稚園において口腔衛生指導を行う（歯科健康教育の実践）
- ・バンコクに在留する日本人を対象とした海外公開講座（歯の健康セミナー、歯の健康相談会）で、教員活動の補助業務を行う

上記活動を通して学生の国際理解力を向上させ、将来学生がグローバルな課題に対応できる歯科医療人・国際研究者を目指すための動機付けを行うことが本研修の目的である。

3. 研修訪問先

Chulalongkorn University (CU)

Srinakharinwirot University (SWU)

Wat Hua Lampong School（地域歯科保健研修）

Bangkok Metropolitan Health Center（地域歯科保健研修）

Low-income urban community in Bangkok（地域歯科保健研修）

Pakkred babies' home（社会福祉施設研修）

Pakkred Center for the disable（社会福祉施設研修）

レインボー幼稚園（歯科保健教育）

Purimas Beach Hotel（リトリート）

4. 参加学生

歯学科 4 年生 10 人 (◎はリーダー)

石渡 弘道、◎河合 陽介、岸 美沙子、小林 駿、佐藤 瑠香、高田 嘉宝、谷口 雄基、徳永 佳紀、藤田 優華、宮原 琴美

口腔保健衛生学科 4 年生 4 人

小川 真央、篠崎 由季、平山 貴恵、森下 文華

5. 引率教職員

川口 陽子 (タイ拠点運営管理者、健康推進歯学分野)

森尾 郁子 (国際交流センター長、歯学教育開発学分野)

關 奈央子 (歯学教育開発学分野)

小野田 勝次、福井 雄二、石田 雄之、柴田 真希、古舘 藍子 (国際交流センター)

6. 宿泊場所

The Imperial Queen's Park Hotel Bangkok

住所 199 Sukhumvit Soi 22, Bangkok 10110, Thailand

電話 +66(0)2261-9300

Purimas Beach Hotel, Ban Chang Rayong (Retreat 滞在先)

住所 34 Payoon-Namrin Road, Ban Chang, Rayong 21130, Thailand

電話 +66-38-630382-90



Ⅱ．参加学生募集要項

平成 25 年度「タイ歯科研修プログラム」への参加学生募集について

事業推進責任者 歯学部長 田上 順次

本学は平成 24 年から 5 年間、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業～ASEAN 諸国等との大学間交流形成支援～」に採択されました。本プログラムは、東京医科歯科大学が、タイのチュラロンコン大学、インドネシアのインドネシア大学およびベトナムのホーチミン医科薬科大学と連携してコンソーシアムを形成し、我が国が有する先進的な医療・歯科医療機器や材料、最新の医療・歯科医療技術等を基盤として、東南アジアにおいて大学間交流を推進してネットワークを形成し、我が国の医歯学領域の世界展開力を強化する取組です。本事業の一環として歯学科学生が海外で研修や学生交流を行うことを支援します。

平成 25 年度については、以下の要領で参加学生を募集します。

1. 派遣先：チュラロンコン大学歯学部（タイ）
2. 研修内容：大学附属病院の見学・健康教育・学生交流・海外公開講座の補助
3. 対象学年・人数：歯学科 4 年生・8 名、口腔保健学科 4 年生・4 名
4. 派遣時期：平成 25 年 8 月 29 日～9 月 10 日（予定）
5. 支援内容：往復航空券

※前年度の成績評価係数（GPA）が 2.3 以上の場合には、JASSO からの奨学金 7 万円の追加支援あり。GPA2.3 未満の場合には奨学金はでないが、研修への参加は可能。

※自分の GPA は、教務掛で確認してください。毎年 4 月に開示している GPA は、前年度までのトータルな GPA なので、この数値ではありません。

6. 選考方法：

書類選考、及び英語による面接

※面接の日時、場所等は申請書受付後、メールにて連絡します。面接は 5 月上旬を予定。

7. 申込先・締切日：

申請書（和文、及び英文）を学務部教務課歯学系教務掛から受け取り、必要事項を記入のうえ、同掛に提出してください。

締 切：平成 25 年 4 月 26 日（金） 17:00 まで（時間厳守）

8. 選考通過後：

- ・帰国後に研修報告書の提出があります。また、報告会を開催する場合には成果発表があります。

- ・選抜された学生は、事前に海外派遣英語準備コース・健康教育コース等を受講する必要があります。

英語コース日程：5/30, 6/13, 6/20, 6/27, 7/4, 7/11, 7/25) ※詳細は選考後に連絡します。

9. 単位認定：

海外歯科研修プログラムに参加し、一定の条件を満たす場合には以下の単位を認定します。

「デンタルエクスターンシップ(Dental externship) 1 単位」

問い合わせ先

学務部教務課歯学系教務掛 加来、岡田（内線 5411）

国際交流課国際交流掛 柴田・杜（と）（内線 4941）

Ⅲ. 事前研修

1. 海外派遣英語準備コース

日程：5/30, 6/13, 6/20, 6/27, 7/4, 7/25

計 6 回

講師：關奈央子（歯学教育開発学分野）

5/30	English conversation 1	17:15-18:00
6/13	English conversation 2	17:15-18:00
6/20	English conversation 3	17:15-18:00
6/27	English conversation 4	17:15-18:00
7/4	Dental English 1	16:30-18:00
7/25	Dental English 2	17:00-18:30
Summer intensive course(希望者のみ)	English conversation	14:00-16:00

東京医科歯科大学歯学部歯学科・口腔保健学科 4 年生のうち、海外研修を希望して選抜された学生 14 名（歯学科 10 名・口腔保健学科 4 名）を対象に、海外派遣英語準備コースとして、英語・歯科英語の特別プログラムが開設された。コースは上記の表に示す通り全 6 回の授業と希望者のみ夏期集中講義(8/14)で構成され、内容は英会話および歯科用語学習を中心に、小グループによる講義が実施された。

また、コースの終了時に本学が定める規定に従い、申請時に語学能力基準を満たしていない学生に対し、語学能力試験（英語）を 7 月 26 日に実施した。結果、派遣者すべてが本研修におけるデンタルエクスターンシップ（1 単位）認定の選考基準を満たすこととなった。



2. 健康教育準備コース

講師：白田千代子、遠藤圭子

学生 14 名を 3 グループに分けた。それぞれのグループには口腔保健学科学生が含まれるように編成した。

A 班；3 歳児担当

B 班；4 歳児担当

C 班；5 歳児担当

石渡 弘道	岸 美沙子	河合 陽介
藤田 優華	高田 嘉宝	小林 駿
宮原 琴美	谷口 雄基	佐藤 瑠香
森下 文華	徳永 佳紀	篠崎 由季
	小川 真央	平山 貴恵

日程及び活動内容は以下のとおりである。

月日	授業題目	授業内容
6/27	健康教育の企画	アイスブレイク、班編成、情報収集について
7/ 4	情報収集	各世代の発達段階、昨年度の健康教育内容
7/11	目標・テーマと概要	目標設定、指導概要、流れの確認、シナリオ作成
7/18	教材作成Ⅰ	背景、ペープサート、模型、パペット作成、シナリオ見直し
7/25	教材作成Ⅱ	ペープサート修正、パペット完成、シナリオ見直し
7/26	健康教育実践の練習	班毎に練習、シナリオ見直し・修正
8/ 6	教材作成Ⅲ	〃
8/15	教材作成Ⅳ	〃
8/20	教材作成Ⅴ	〃
8/27	最終確認	持ち物確認、最終練習
9/ 9	健康教育実践	レインボー幼稚園における健康教育

☆ 3 歳児：22 名 4 歳児：14 名 5 歳児：19 名

☆

上記日程 17－19 時に、1 号館西 7 階口腔保健学科第一講義室および第二セミナー室を使用して、レインボー幼稚園における健康教育の企画、準備を行った。担当者によっては、他の日程にも準備を行った。

今年は、幼稚園側からの要望に応え、4、5 歳児に加えて、3 歳児も対象とした健康教育を行うこととした。また、歯みがきに関する掲示物を作成した。班毎に、対象児の発達段階や生活環境に関する情報を収集するとともに、昨年度の内容をも参考

にしてテーマを決定し、指導案・教材作成に取り組んだ。特にシナリオが完成するまでには、多くの修正を必要としたが、学生はアドバイスを活かして、よりよい内容を作り上げた。どの学生も、自主的、積極的に取り組み、当日の成果に繋がった。

教材作成に使用したもの：

画用紙・白ボール紙・棒・針金・色紙・ポスカ・ポスターカラー・写真・オリジナルパペット・ガムテープ・両面テープ・マグネット・文具 他



3. 初級タイ語・タイ文化理解講座 （添付資料1，2参照）

講師：Kulthida Nunthayanon （咬合機能矯正学分野）

日時：8月27日14時より

タイでの研修に先立ち、簡単なタイ語の紹介から基本単語の発音、いくつかのシチュエーションを想定しての会話練習など、少人数のグループレッスンを実施した。また、タイの地理や気候、食事、文化、通貨、歯科事情についての説明や、ワイと呼ばれる挨拶の意味や方法について実演を交えながらの説明を行った。



4. 危機管理（添付資料3参照）

講師：小野田勝次（国際交流センター）

海外出発前および現地到着後に、資料（添付資料3）を配布して海外研修時の注意事項、タイ滞在時の飲食物の注意や体調の管理法、気候・通貨・チップなどの現地情報、交通機関の利用方法、一般犯罪・交通安全など危機管理法、文化・週刊・宗教などの違い、緊急時の連絡先などについての説明を行った。



5. 大学・派遣留学生危機管理サービス（OSSMA）説明会

講師：日本エマージェンシーアシスタンス株式会社（EJA）

大学向けアシスタンスサービス担当者

日時：2013年7月18日、26日（両日とも同じ内容）

学生にはどちらか1日に出席してもらった。

EJA が提供する OSSMA サービスの概要および利用方法、留学時安否確認システム（LOCATOR）の内容及び利用方法、付帯すべき海外旅行保険の内容、および海外渡航時の一般的な危機管理、アジア地域の医療事情、緊急時の対応についてのオリエンテーションを行った。



6. タイ研修説明会

日時：7月18日、8月9日、15日

参加者：タイ歯科研修プログラム参加学生、引率教職員

学生リーダーの決定、リトリートの Cultural Night で披露するショーおよびの SWU における日本文化紹介プログラムの打ち合わせ、グループディスカッションのテーマについての説明、レインボー幼稚園における健康教育、など渡航前の準備すべき内容の確認、および出発するまでの予定について説明を行った。また、研修参加者に課されている各種報告書、本研修に伴うアンケート、帰国後に行う下級生を対象とした海外研修報告会がある旨を確認した。

IV. 研修日程

平成 25 年 8 月 29 日～9 月 10 日 全 13 日間

8 月 29 日 (木)

- 8:30 集合 成田空港第一ターミナル 南ウィング 4F 出発ロビー F カウンター前
- 10:50 東京 (成田空港) 出発 NH953 便
- 15:25 バンコク (スワンナプーム国際空港) 到着
- 18:30 ホテル到着、バンコク滞在時の注意事項説明 (危機管理)、日程の確認
- 21:00 Cultural Night 催し物、健康教育の最終チェック

8 月 30 日 (金)

- 10:00 オリエンテーション CU
- 10:30 歯学部ツアー (Dr. Wantida) CU
- 12:00 昼食 CU
- 13:00 大学構内ツアー (Dr. Piyamas) CU

<< Retreat @ Purimas Beach Hotel, Rayong >>

8 月 31 日 (土)

- 7:30 出発 (インペリアルクイーンズパークホテル)
- 10:30 リトリート開会式、アイスブレイカー (Dr. Shivatra & Dr. Kasekarn)
- 12:00 昼食
- 13:00 特別講義 1 : Secret of time management (Dr. Shivatra)
- 14:00 グループディスカッション「理想的な歯科教育」 (Dr. Kevin)
- 18:30 レセプション 『Cultural night』 (Dr. Kevin)

9 月 1 日 (日)

- 9:00 グループプレゼンテーション準備 (Dr. Kevin)
- 10:30 グループプレゼンテーション (Dr. Kevin)
- 12:00 昼食
- 13:00 異文化理解ツアー Princess Maha Chakri Sirindhon Herbal Garden
- 18:00 ホテル到着

9 月 2 日 (月)

- 9:00 学生臨床実習 (むし歯外来) 見学 グループ 1 (Dr. Chanwit) CU
- 学生臨床実習 (歯周病外来) 見学 グループ 2 CU
- 10:30 研修場所の交代
- 13:00 口腔外科外来見学 グループ 1 (Dr. Busana) CU
- 放射線外来見学 グループ 2 (Dr. Pornkawee) CU
- 14:30 研修場所の交代
- 17:00 バンコクの開業歯科医院の見学 (富士 JDC クリニック)

9月3日(火)

9:00 地域歯科保健研修

Wat Hua Lampong School 見学 グループ1 (Dr. Sudaduang)

BKK Metropolitan Health Center グループ2 (Dr. Tongchai)

低所得者コミュニティー見学

13:00 研修場所の交代

9月4日(水)

9:00 学生基礎実習(むし歯外来) 見学 グループ1 (Dr. Chaiyasri) CU

学生基礎実習(義歯外来) 見学 グループ2 (Dr. Kawita) CU

10:30 研修場所の交代

12:00 昼食

14:00 特別講義2: How to write a scientific paper (Dr. Kevin) CU

9月5日(木)

8:00 社会福祉施設研修 (Dr. Kasekarn)

Pakkred Babies' House 見学

Pakkred Center for the Disable 見学

12:00 昼食

13:00 研修成果報告、閉会式

CU

9月6日(金)

10:00 歯学部・大学ツアー

SWU 歯学科

12:00 昼食 (SWU 歯学部生と共に)

SWU 歯学科

13:30 日本文化紹介プログラム

SWU 日本語学科

15:30 相互文化交流会

SWU 日本語学科

9月7日(土)

SWU 歯学部生と異文化理解・学生間交流ツアー (アユタヤー、MM マーケット)

9月8日(日)

8:30 設営準備

10:00 海外公開講座(歯の健康セミナー/歯の健康相談会)

Queen's Park Hotel

15:00 閉会式

9月9日(月)

10:00 歯科健康教育・歯磨き指導

レインボー幼稚園

20:30 集合 (Queen's Park Hotel) し、空港へ

23:55 バンコク (スワンナプーム国際空港) 出発 NH916 便

9月10日(火)

8:10 東京(成田空港)到着

空港にて現地解散

V. 日本文化紹介プログラム・相互文化交流会

日時：2013 年 9 月 6 日 13：30-16：30

場所：シーナカリンウィロット大学 人文学部日本語学科

司会：村上暢貴、岩本千裕（東京外語大学タイ語専攻）

シーナカリンウィロット大学人文学部日本語学科 4 年生と日本語による両国文化の紹介および相互文化交流会を開催した。SWU からは日本語学科教員の高木司、藤本尊之、パット・オン・パタナクル、アーティナン・カンチャナブル、および東洋言語学科長のウィチャコーン・トンローが、本学からは国際交流センター長の森尾郁子、国際交流センターから福井雄二、關奈央子、石田雄之、古舘藍子が参加した。

1. 自己紹介
2. 両国による文化紹介プレゼンテーション（5 テーマ）
両国の文化比較を行うため、内容を「文化」「歴史」「地理」「食事」「オリジナル」の 5 テーマに定め、事前に資料の準備を行い、日本語で交互に発表を行った。
3. 日本語会話にて行う学生交流
発表テーマごとのグループ間で、日本語で話す機会を設けた。
4. 伝統衣装を交換してのドレスアップ会
用意した両国の伝統衣装を交換し、相互に着付けを行った。お互いの衣装にドレスアップした日タイの学生は、ポーズを決めて写真を取り合うなどして、和気藹々と交流を行った。
5. 記念品の授与
東洋言語学科長のウィチャコーン・トンローより記念品の贈呈があった。



VI. 研修風景（写真）

1. CU 研修（研修開始前も含む）

1-1 研修開始前

成田空港にて。定刻通り集合。預け手荷物の重量制限が厳しかった。



クイーンズパークホテル出発時。緊張の表情の中にも、研修への期待が伺える。



CU 到着。いたるところに、自分達の歓迎を感じ、表情がほころぶ。



1-2 CU 研修開会式

プリム先生より開会の辞、CU 概要説明



英語のリスニングに熱心に耳を傾ける



1-3 歯学部、大学ツアー
歯学部内は、徒歩にて見学



図書館。自習スペースが広い



図書館を利用する学生が多くいた



CU スタッフとともに昼食



現地で初めてのタイ料理



1－4 学生臨床・基礎実習見学
学生臨床実習（虫歯外来）の見学



学生基礎実習（全部床義歯）の見学



1－5 大学病院見学
放射線科の見学 准教授が小講義を提供してくれた



口腔外科外来の見学 システムや衛生管理の説明から縫合実習まで内容は盛り沢山



1－6 地域歯科保健研修

BKK 管轄の小学校見学 CU 学生が地域歯科保健研修を実施していた



唾液干渉能のテストを小学校のカリエスリスクマーカーとして使用していた





バンコク内にある低所得者都市コミュニティの見学



地元の集会所にて コミュニティー全体から歓迎を受けた



1-7 社会福祉施設研修
バンコク郊外の孤児院見学



スタッフからタイの事情に関する説明を受ける





子供たちの熱烈な歓迎を受け、学生たちの疲労も吹き飛び、子供たちの遊具に



Pakkred 障害者センター見学



1-8 特別講義

Kevin 先生による科学論文の書き方に関する特別講義を受けた



1-9 開業歯科医院見学（富士 JDC デンタルクリニック）



1-10 昼食会、閉会式、研修プレゼンテーション





1-11 その他



2. リトリート

2-1 ホテル到着前



2-2 リトリート開会式



2-3 アイスブレーキング（自己紹介・他己紹介・両国『ゾウの歌』の交換）









2-4 特別講義『タイムマネジメントの極意』



2-5 グループディスカッション 『理想的な歯科教育』





2-6 グループプレゼンテーション 『理想的な歯科教育』







2-7 文化交流会『CU-TMDU Cultural Night』



















2-8 閉会式



3. SWU 研修

3-1 SWU 歯学科



3 - 2 SWU 日本語学科









4. 海外公開講座





5. 歯科保健教育、歯磨き指導（レインボー幼稚園）









6. 異文化理解、学生間交流



VII. 学生によるレポート（日本語）

歯学部歯学科 4 年 河合 陽介

研修に参加する前の、この研修での大きな目的は、海外に行き、異文化に触れることによって、自分の新たな価値観を創造したいというものであった。これまで、私は海外に行った経験が無く、漠然と海外に行けば何かしら、新しい発見や価値観を見出すことができるのではないかと思っていたのだ。今回の研修においては、概ねその予感は正しく、目的も達成することができたと思う。

今回、価値観を大きく変えたという点で、最も強く印象に残ったのは、タイにおける貧富の格差である。これは、自分の常識を覆すものであった。最初タイに着いたときは、バンコク市内は、高層ビルが立ち並び、道路や鉄道も整備され、東京と変わらない大都市であると感じたが、ホテルの前の道路で、恐らく出稼ぎに来ているのであろう親子が寝ていたのだ。また、チュラロンコン大学の研修プログラムでコミュニティと呼ばれる、貧しい人たちの生活共同地区を訪ねた際には、臭いや虫、野犬が多いことから、とても衛生的であるとはいえない環境であった。そこには生活をしている人達がおり、海外から客が来てくれたとコミュニティの全体で歓迎してくれた。プログラムで、親に見捨てられた孤児達が住む施設を訪れた際には、タイでは一日に 15 人もの子供たちが孤児になるという現状を知った。孤児達と触れ合う機会があったのだが、孤児達は皆、愛に飢えており、見知らぬ私たちにもすぐ近づいて来て、抱っこを要求してきた。日本では、これら全て考えられないことである。新聞やテレビの報道で、諸外国の貧しい様子、戦争の様子などを目にすることはあり、理解しているつもりではあった。しかし、実際に目にして、経験することによって得られる印象の強さは全く異なるということを、身をもって体感した。社会のあらゆる事象に対して、完全に理解するということは、難しいかもしれないが、その表面をなぞっただけの報道や文献で見ることで、理解したつもりになっているのは危険なことでもあると感じた。

プログラムを通して、もう一つ痛感したのが、自分の英語能力の乏しさである。中学、高校、大学と英語を勉強してきたにも関わらず、相手の話を聞くのが精一杯で、話そうとしても、自分の言いたいことが思うように伝わらない。タイの学生とディベートをしたのだが、十分な意見交換を行うことができなかった。しかし、タイの学生は、積極的に話しかけてくれたり、観光に連れて行ってくれたりしたので、仲良くなることはできた。また、これを機に自分の英語が通用しないということを知ることができたのは、大きな収穫である。今後も仲良くなった学生達と交流を深めていくと同時に、自分の英語能力の向上を目指し、英語の勉強に励みたいと思う。

また、今回のプログラムでは、チュラロンコン大学の学生との交流を通じて、タイの歯科事情について学ぶことができた。チュラロンコン大学の施設等は、日本とさほど変わらず、歯科水準も高いように思えた。しかし、些細な異なる点や、日本と同一な点などが存在し、

それを学ぶことができただけでも、今後の学習や、日本の歯科事情を考える際には、大いに役立つことであると思う。

以上のように、今回のプログラムでは、海外に出てみないと気づくことができなかったことが非常に多い。そのため、海外に目を向けることが非常に有意義なことが、今回のプログラムで理解できたと思う。それと同時に日本についても、知らないことがまだまだあるように思えた。これを機会に、新しい環境に積極的に身を置いて、経験値を高めていくことで、将来、人間性豊かな歯科医師を目指していけたらよいと思う。

歯学部歯学科 4 年 佐藤 瑠香

このプログラムでの私の 1 番の目的は、タイの歯学生とコミュニケーションを図ることであつた。自分の英語力に自信がなく不安であつたが、同年代の、しかも同じ歯学生であるタイの学生とは自然と仲良くなることができた。今回友達になったタイの学生たちとは今後も連絡をとって仲良くしていきたいと思う。そして、この大きな収穫以外にも得られたことが多くあつた。中でも印象的であつたのは、3 つある。

1 つ目は、バンコクで最も貧しいコミュニティの見学である。悪臭・音・暗さ・狭さを体感し、衝撃を受けた。大きな犬が吠えたり、ゴキブリの死骸がいたるところにあつたり、大量の虫が飛び交ったり、地面は汚水で水浸しだったり、住人がじっとこちらに注目していたり、とにかく恐ろしさでここを抜け出したいという一心になった。

自分は、「国境なき医師団」のように手を差し伸べようという気持ちよりも、ここの人々はなぜこのようなコミュニティに住んでいるのか、一生こんなところで暮らして平気なのかという困惑の気持ちが先行した。歓迎してくれる人もいたが、それに応えるゆとりもなかった。現場を見て、そうした自分もまた初めて発見した。

2 つ目は、baby home の見学である。そこでは、主に親が 10 代であつたり、貧しさを理由に捨てられた子どもを保護していた。単なる可哀そうという感情だけではなく、タイの社会の現状を考えさせられた。この施設見学の前に、貧しいコミュニティを訪れていたことは、理解に役立った。3 歳児と交流したが、みんなだっこをお願いしてきた。とてもかわいかったが、本当なら親に甘えたい年齢なのだと感じた。タイでは国民一人一人が ID 番号を持っているそうだが、親のいない子どもは、番号が異なるという。施設の方は、「番号が違うのはおかしいから、その制度を変える運動をしている」と言っていたが、私もそうすべきだと思った。

3 つ目は、タイの歯学生と日本の歯学生の違いである。チュラロンコーン大学の歯学生との会話の中で、医科歯科の歯学生との違いがいくつかわかった。彼らは、3 年生で PBL や保存・修復の実習が始まり、4 年生から臨床実習が始まる。研究も 4 年生から 6 年生まであり、ときには週末に研究室に行くという。そのため、部活やアルバイトはしていない学生が多い。

しかしながら、タイが進んでいると一概には言えない。タイと日本では状況が異なるからである。保存・修復の授業では、インレーはなく、代わりにアマルガムがあった。また、臨床実習では、outline seat という歯の絵が描かれた紙があり、そこにはう蝕の絵などを書き加え、教員にチェックをもらう。これは4年生でも診療がしやすい工夫であるが、記入の間、患者は口開けている必要がある。医科歯科で学生が診る患者はほとんどが高齢者であることや、タイでは歯学生に診てもらう方が診療所より安い、日本では同じ料金であることを考慮すると、同じように医科歯科の4年生が臨床実習することは非現実的と思われる。とはいえ、日本はタイよりも圧倒的に臨床実習が少ないことがわかった。

さらに、面白い制度があった。タイでは国立大学の歯学生は卒業後3年間地方の診療所で働く、奉仕の義務がある。これは120万円払えば免除されるが、ほとんどの学生が奉仕を選ぶという。120万円は彼らの給料からすると高額ではないが、奉仕をしなかった場合、学生本人と学生の家族が加入できる保険が変わって医療費の負担が増えたり、教育費の補助を受けられなかったりするからだという。また、難しい症例も地方の方が多いので、経験になるのだという。

以上のように、今回のプログラムでは実際にタイを訪れないとわからないことを体験することができた。この経験は相互理解に役立つとともに、日本を客観的な視点から見る良い機会になった。この経験を今後活かしていきたいと思う。

歯学部歯学科4年 石渡 弘道

今回の海外研修では、タイの大学の見学、そこの大学生との交流、そして現地の歯科医療施設の見学など様々な貴重な経験をしました。

まずチュラロンコン大学についてですが、タイで最高峰の大学ということで、優秀な生徒ばかりで勉強に対する意識も高く、同年代の歯学部の大学生としてとても刺激を受けました。リトリートでは、理想の歯学部のカリキュラムというテーマでディベートを行ったのですが、彼らの英語の能力が非常に高く、コミュニケーションがうまくできなかった場面がありました。彼らと比べて自分の英語能力の低さに失望しましたが、同時に今後は英語を勉強しようと考えました。また、彼らは4年生から患者さんの治療を行うということで、まだ臨床科目も十分に勉強していない私にとっては衝撃的でした。そして彼らは大学外でも臨床実習を行っていて、例えば障がい者施設での治療、地域の小学校での歯科保健指導などがあります。私はこれらの実習はより良い歯科医師になるためには必要であり、このカリキュラムは医科歯科大学にも取り入れるべきだと考えます。

チュラロンコン大学での経験は、私に歯学部の生徒としての考えを見つめなおす良い機会になりました。またここで出会った学生との交流は今後も続けていきたいです。

次にシーナカリン大学についてですが、ここでは歯学部の学生だけでなく、日本語学科の学

生とも交流できました。日本語学科の学生は想像以上に日本語が話せ、互いに自国の文化や環境について話し合いました。彼らは日本語だけでなく英語も話せるので、ここでもタイの英語教育のレベルの高さを感じました。彼らは将来、空港や貿易関係の仕事を希望しており、私はタイで日本語が話せる人はどのくらい需要があるのか興味を持ちました。今後日本に来る機会があるそうなので、楽しみにしています。

歯学部歯学科 4 年 谷口 雄基

チュラロンコン大学の学生とレイヨンで過ごしたリトリートが最も印象深かった。チュラロンコン大学の学生と医科歯科の学生を混ぜたグループで、理想の歯科教育カリキュラムがどのようなものかについてディスカッションをした。僕たちの班は、まずそれぞれの大学のカリキュラムを紹介したうえで、これらをベースとしてカリキュラムについての話し合いを進めた。チュラロンコン大学の学生はみな英語が上手で、話したいこともスラスラと困らず話していた。チュラロンコン大学の学生との間に英語能力の大きな差を感じた。グループワークの内容は非常に難しいものであったし、英語を聞きとること、話すこと、内容についていくとこで精一杯だったが、少人数でたくさん話すことにより確実にチュラロンコン大学の学生と距離を縮めることができたし、このグループで数回ご飯に行くほど仲良くなれた。リトリートの夜のカルチャーナイトでは、チュラロンコン大学の学生がタイの伝統舞踊発表してくれて、またタイの子供がよくする遊びを教えてくれた。医科歯科の学生は盆踊りと、茶道を発表した。

バンコクに帰ってから、Pathumwan district という、貧困層の人々が集まって暮らすコミュニティへ行き、実際にその中を歩いたり、ヘルスケアセンターのスタッフから説明を受けたりした。Pathumwan district の実態に驚き、衝撃を受けた。テレビの中でしかみたことがないような貧困層の集まる地域を実際に目で見たことは研修の意義があったと個人的には思う。ただ観光でタイを訪れた場合には決して見ることのない部分だった。2メートル四方の部屋に暮らしていたり、悪臭のする中で彼らは生活していたが、日本にはこのような地域はなく、タイ国内の貧富の差をものすごく感じた。このような場所に現地のボランティアスタッフが定期的に訪れていることには感心させられた。今日見た Pathumwan district は約 1,000 人が暮らしていて、まだ 10 個以上のコミュニティがタイ国内にはあり、貧困層はのべ 43,000 人程度いるこの状況を変えていくことは難しいことだと思った。

シーナカリンウィロット大学の病院を見て受けた印象としては、各科にユニットが 50 台近くずつあり、なのに学生数は 1 学年で 60 人なのでほとんどのユニットが使われていなく患者さんも少なかったのも、正直にお金の無駄だと思ってしまった。チュラロンコン大学で

も各科に多くのユニットがあったが、ちゃんとユニットも埋まっていたし違いを感じた。日本語学科の学生たちは、日本のことがやはり好きみたいで日本語も上手だし日本についていろんなことを知っていた。

最終日には、バンコクにあるレインボー幼稚園で、3～5歳児に紙芝居や人形劇を用いての健康教育・歯磨き指導を行った。レインボー幼稚園には、バンコク在住の日本人の子供が通っている。自分は4歳児を担当した。今回のように他人に対して健康教育・歯磨き指導を行うのは初めての経験で不安な面もあった。実際にやってみると4歳児は静かに紙芝居を聞いてくれて安心した。この経験は、4歳児がどの程度言葉を知っていて、どの程度理解して反応してくれるのかなど、子供の発育段階を触れ合うことで身を持って知ることができる貴重な機会となった。

歯学部歯学科4年 徳永 佳紀

日本に帰ってきて今回の研修を振り返ると、このプログラムに参加して本当に良かったなと思います。自分は、研修に参加する前、特に明確な目標もなく、ただ試験に通るためだけになんとか勉強している状態でした。英語に関しても、将来必ず必要になることは分かっていたながらも、普段の大学生活において特に困ることはないので、自分から何かを始めることはありませんでした。そこで、今回の海外研修に参加すれば何か変わるきっかけになるかもしれないと思い、今回の研修に応募させていただきました。

今回の研修で、得ることができたものは数えきれないですが、中でも自分が特に貴重な経験だったと思うのは、海外の友達ができたということです。これは、単に自分で海外旅行をするだけでは難しいことですし、今回のような研修だからこそできた経験だと思います。やはり、友達ができると、もっと相手のことを知りたい、自分のことも知ってもらいたいという気持ちが湧いてきます。しかし、自分の英語力の低さのせいで、自分の伝えたいことが言葉で表せないということも多く、悔しい思いをしました。相手が自分に伝えようとしていることが理解できないのもとても残念なことだと思います。これらの経験は、日本では感じる事ができなかった英語の必要性を自分に教えてくれ、これから英語を勉強するモチベーションにつながったと思います。また、今回できた友達は、自分と同じく将来歯科医療に携わる学生達であるということも重要なことだと思います。特に、チュラロンコン大学の学生は、四年生から実際の患者さんを相手にする臨床実習が始まるので、勉強の進度が自分達よりも圧倒的に早く、その点においても刺激を受けることができました。

印象に残っているプログラムは、研修の三日目に行った、医科歯科大学の学生とチュラロンコン大学の学生で少人数グループを作り、お互いのカリキュラムについて話し合い、理想的な歯科教育について考えるというものです。海外の人とディベートをするという経験を

したことがなかったので苦労しましたが、何よりもこのグループワークの中で、自分達のカリキュラムに対する知識不足を感じました。なぜこの科目を勉強する必要があるのか、なぜその時期に勉強するのかと尋ねられても、今まで考えたことがなく、うまく答えられませんでした。このことから、自分はこれまでいかに受け身の姿勢で勉強していたのかということに気づかされました。これからは、ただ与えられたカリキュラムに沿った勉強だけではなく、もっと自分から進んで、積極的に学習していく姿勢をもちたいと思いました。

今回の研修は、自分に今何が足りないのかということに気づかせてくれ、これから残りの大学生活をどのように送っていくべきなのかを考えるきっかけになったと思います。この経験は、将来立派な歯科医師になるうえで必ず役に立つと思います。また、今回得たものをここで終わりにするのではなく、何らかの形で次につなげていきたいと思います。最後になりますが、今回の研修を通して色々とサポートしていただいた先生方、一緒に研修に参加した学生の方々、現地の方々、このプログラムに携わった全ての人に感謝の気持ちを表したいと思います。本当にありがとうございました。

歯学部口腔保健学科 4 年 篠崎 由季

今回の 13 日間のタイ歯科研修プログラムでは、チュラロンコーン大学・シーナカリンウィロット大学の学生との交流、病院や学校、開業歯科医院の見学、在タイ日本人幼稚園での歯科健康教育など多くの経験をすることができました。研修プログラムはとても充実しており、日々様々なことを学び、考え、自分の視野を広げるよい機会となりました。

特に学ぶことが多かったのは、7 日間にわたるチュラロンコーン大学のプログラムです。初めのリトリートでは、チュラロンコーン大学の学生と理想的な歯科教育について議論し、日本とタイの歯科教育の違いについて知ることができました。タイにはデンタルナースという職種があり、日本の歯科衛生士とは異なり治療が可能で、2 年の勉強で抜歯やレジン充填を行うことができるということも学びました。日本では、歯科衛生士は予防、歯科医師は治療というように分かれています。タイの場合はそうではないということを知り、それぞれの良さや改善すべき点などについて考えることができました。

また、学生実習の見学では、ペリオと修復の外来の見学をすることができました。診療の流れや使用道具などは日本とほとんど同じでしたが、バキュームやブラケットの端など術者が触れる部分にラップがされてあったり、スケーリングの際に術者だけでなく患者もメガネをかけたり、患者がバキュームを持って操作したりするというような日本との違いを知りました。患者がサングラスのようなメガネをかけるのは、ライトの光が強いということが一番の理由であるそうですが、歯科治療では水や材料、歯石など細かいものが飛散してしまうので、それらから防護するためにもとても大切であると感じました。さらに、ユニットには仕切りがあって部屋のように分かれており、患者のプライバシーが守られるような

っていました。このように日本との違いや日本に取り入れるべき点を学んだことにより、海外の歯科事情を知ることの大切さを感じました。

貧しいコミュニティの見学では、日本では見ることのない貧富の差を強く感じました。衛生状態の良くない環境で貧しい暮らしをしている様子を目の当たりにし、普段何不自由なく暮らしていることがとてもありがたいことであると改めて考えました。このようなコミュニティの人々は歯科医院に行くことも難しいので、学校では月に1回健診を行い、治療の必要があればヘルスセンターに紹介するという制度を取っていました。さらに昼食後には全員で歯磨きをする時間が設けられており、このように予防に重点を置くことが大切であると実感しました。

研修最終日に行った健康教育では、5歳児を担当し、朝食をとること、手洗い・うがいをする、歯磨きをすることの大切さを教える劇と歯磨き指導を行いました。子供たちの反応は良く、熱心に聞いてくれましたが、知っていることの指導になってしまったようなので、もう少しレベルの高い話をするべきであったと感じました。年齢や生活の環境などによって適切な指導が異なるという健康教育の難しさを感じました。

さらに、タイの学生との交流を通じて、英語の大切さ、自分の英語力の低さを痛感しました。拙い英語でもコミュニケーションを取ることはできましたが、自分が伝えたいことを十分に伝えることができず、もどかしい思いをすることが多々ありました。国際交流の場において英語が非常に重要であることを実感したので、英語の勉強をこれからも続け、少しでも上達させたいと感じました。

今回の研修を通じて、このように多くのことを学び、タイの学生と交流することによって日本の良さ、タイの良さを知り、国際交流の大切さを感じました。自分の糧となる貴重な経験をすることができ、この研修に参加することができて本当に良かったです。最後になりましたが、このような機会を設けてくださった先生方、研修でお世話になりました全ての方々に心から感謝申し上げます。

歯学部口腔保健学科4年 小川 真央

今回の研修では、観光目的の旅ではなかなか体験できない、たくさんの経験をすることができました。これから歯科衛生士として活動していく上で、大きな糧となると強く感じています。

タイの学生とはグループワークをしたり、決められた時間外にも食事や観光に行ったりして、一緒に時間を過ごすことができました。まず、タイの学生が皆、英語を話すことができることに驚きました。私は、思うことがあっても英語でどう言えばいいのかわからず、力不足を実感しました。もっと勉強しなければいけないと改めて感じましたが、伝えようと思えばコミュニケーションをとることができるということも学びました。話そうとすると相手がいつも助けてくれて、自分の考えを伝えられたことが多くあったからです。間違えるこ

とを恐れずに話してみることが大切だと思いました。皆とても親切に接してくれて感激しました。今度は日本で学生たちを迎える立場になるので、お返しをしたい気持ちでいっぱいです。

大学病院や歯科関連施設を訪れ、歯科医療について知ることができました。大学病院の設備は特に、日本とあまり変わらない印象を受けました。歯科医師が不足しているタイでは、デンタルナースという方々が活躍しています。デンタルナースは日本の歯科衛生士に近い職業ですが、歯科衛生士にはできない治療の一部を担当していることが分かりました。タイでも、人々の予防に対する意識を高めるような活動が必要であると感じました。日本の歯科衛生士としては、タイで活動したり、タイで活動する人を指導したりすることで、タイの人々の健康推進に貢献することができると考えました。

貧しい地域のコミュニティを訪問した際は、暗さや狭さ、においなどを肌で感じて、本や映像からとは大きく異なる強い印象を受けました。少しの時間見ただけで、現状をすべて理解できるわけではありませんが、自分の目で見ることに意味があると感じました。私たちは、その地域の人々に、今どんな支援が必要なのかを考えました。歯科に限らず、広く考える良い機会となったと思います。

日本人向けの開業歯科医院の訪問や先生方のセミナー・相談会の手伝いでは、海外で日本人としてできる活動を知ることができました。セミナーや相談会では、特に矯正歯科や小児歯科の分野の質問や相談が多くありました。海外に住む日本人にとって、情報提供や相談を受ける場が必要であることを感じました。私はタイムキーパーと歯磨き指導の係でした。歯磨き指導は1人にだけ行うことができたが、歯磨きの仕方の話にとどまってしまいました。今度このような機会があったら、どのような指導が必要かアセスメントし、例えば間食の取り方についてなどを話したいと考えました。

タイに住む日本人の幼児が通うレインボー幼稚園にて、3～5歳児を対象に健康教育を行いました。先生方には日本でもタイでも指導していただき、私たちは修正しながら練習を重ねました。私は4歳児クラス担当のグループで、歯磨き指導の前には清潔をテーマにした紙芝居を行いました。子どもたちは紙芝居に集中し、質問にもよく答えてくれたと思います。歯磨き指導では、3、4人の幼児に1人がついて指導し、私は前で進行する係を務めました。子どもたちは一所懸命に指導通りに手を動かそうとしてくれました。幼児全員に同じ動きをしてもらうようにすることで、集中して取り組んでもらうことができ、スムーズに進行することができたと考えます。今回の健康教育では、これまでの授業、実習で学んできたことを活かし、また、新たに学ぶこともできました。今度このような機会があった際は、生活環境を考慮して、より有意義な健康教育を考えたいです。

今回の研修を通して、今までほとんど関わりのなかった歯学科の学生、そしてタイの学生と仲良くなったことを大変うれしく思います。今後も連絡を取り合って、意見交換をしたいです。

最後になりましたが、ご指導してくださった先生方、職員の方々に感謝申し上げます。

私は、今回 13 日間タイに滞在し研修を行いました。この研修はチュロンコン大学、シーナリンウィロット大学、レインボー幼稚園など様々な施設で行いました。

一番充実していたのは、チュロンコン大学での 7 日間のプログラムです。まず、大学の見学を行いました。臨床実習をしている学生に一人ずつつき見学をすることができました。修復外来での見学では、アマルガム充填の様子を見ました。現在日本では、アマルガムを使用されることはほとんどなく私自身アマルガム充填を実際に見ることは初めてでした。アマルガムに含まれる水銀は環境汚染の問題や人体への影響もあり、使用の際には注意が必要であるという欠点があります。しかし、アマルガムは安価であり、操作が容易であるなどの長所もあります。このことより、日本とタイの歯科事情の違いについて知ることができました。貧富の差・地域の差が大きいなどの社会背景が治療の違いに影響しているのだと感じました。また、週末に行われたリトリートでは、“理想の歯科教育” についてのディスカッションを行い、お互いの大学の歯学部のカリキュラムをよく知るきっかけとなりました。そして、カリキュラムの違いからタイでは、早くから臨床で活動できる歯科医師を必要としていることを知りました。このように、社会背景は治療だけでなく教育にも大きな影響を与えており、同じ歯科医師でも国によって求められていることは違うと感じました。さらに、カチュアムではそれぞれの文化について紹介しました。このイベントによりお互いの文化について知ることができました。さらにタイの学生とも英語を使ってコミュニケーションをとる良い機会になりました。しかし、自分自身の英語能力の低さを痛感し今後英語の勉強を続けようというモチベーションにつながりました。

次にタイの地域保健や学校保健の現場を見学しました。保健センターの見学では、貧困層の暮らすコミュニティを訪れ生活環境を見学しました。そこは、とてもうす暗く、空気も淀んでいました。この中で健康に暮らすことは難しいように感じました。このような場所で暮らす人たちにとっては歯科よりも一日一日を健康に暮らすことが一番大切であり、歯科医療従事者も幅広い視野を持って生活の支援していく必要があると感じました。このほかにも、子どものためのデイクアセンター、障がい者のための歯科治療施設などいろいろな施設を見学しタイの現状について話を聞くことができました。

シーナリンウィロット大学では、歯学部学生と日本語学科学生と交流を行いました。日数としてはとても短い期間でしたが、アユタヤマーケットを案内してもらいタイの文化・歴史に直接触れることができました。

最後にレインボー幼稚園での健康教育です。私は 5 歳児のクラスに人形を用いて健康教育を行いました。日本とは異なる環境で暮らす子どもに対しての健康教育は初めてであり不安でした。そのため、事前に現地の様子を聞くなどして情報収集を行いました。さらに、グループの学生とともに協力して準備を行い、当日は子どもたちと楽しく過ごすことができました。この経験より、健康教育の対象となる人について正しい情報を収集することが健康教育の成功につながると考えました。

私は、今回初めての海外滞在でした。そのため、海外での生活にとっても不安を抱いていました。しかし、ともにタイに行った日本の学生やタイの学生と交流を深めることができ、協力しながら充実した日々を過ごすことができました。13 日間という長い研修を終え、普段の旅行では経験をするできない現地の暮らし・文化・歯科医療現場について知ることができました。また、海外で自分の視野を広げ、いろいろな知識を得るために英語でのコミュニケーションは必要不可欠だと感じました。今回のこの研修で得た経験や友人、課題を今後の生活に生かしていきたいと思います。

歯学部口腔保健学科 4 年 森下 文華

タイ歯科研修プログラムは、タイの歯科事情について学ぶと共にタイの文化や世相について学び、日本と比較することで日本を客観的にみることができた 13 日間だった。

最初の約 1 週間は、チュラロンコン大学の歯学部学生と交流をした。初日はチュラロンコン大学の歴史を学んだり校内見学をしたりし、2 日目から首都バンコクを離れ、ラヨーン県でチュラロンコン大学の学生とリトリートを行った。オーシャンビューの広がるホテルでバンコクの喧騒から離れ、開放的な気分で 2 日間を過ごした。ラヨーンではまず、「理想的な歯科教育」について英語でグループディスカッションを行った。私たち日本人も義務教育で一通りの英語を学んでいるはずだが、いざ英語で会話をすると英語がすぐに出てこないということを実感した。CU 学生は英語が堪能で、プレゼン時の質疑応答でも自分たちの意見を英語で述べることができ、私は自分の意見を人に伝えられないもどかしさを感じた。意志疎通ができない「言語の壁」を痛感した。日常生活で英語を使用する頻度による言語への「慣れ」もあると思うが、私は英語で話すことへの恥じらいをどこか感じていた。日本人の「恥」の文化は国内では美德であっても、海外に出ると「障害」となることも多いのではないかと考えた。そして、リトリートの夜「文化交流会」を行い、私たちは全員浴衣を着て、茶道・盆踊りを紹介した。タイの文化についても学び日本の文化も振り返る機会になった。

CU での病院見学や実習見学では、日本と治療内容や実習の形式はほとんど一緒だと学ぶ一方、その国の経済状況や文化が治療方法に反映されているとも感じた。例えば、齲蝕のアマルガム治療は現在日本ではほとんど使用されていない。一方タイでは、アマルガムは今も多く使用されており、アマルガム充填も実習に組み込まれている。レジンと比較して安価に治療できるからである。また、歯列矯正治療についての考え方も大きく異なっていた。バンコクを歩いていると矯正をしている人を多く見かけた。タイでは、矯正のブラケットやワイヤーをつけていることが「経済的にゆとりがあること」の象徴とされている。そのため、矯正治療ではないが、ブラケットとワイヤーを装着するエステもあるという。各国によって理想とされる治療や患者から歯科に求められるものは異なり、それに臨機応変に対応できる

豊富な知識や技術を身につけていきたいと思った。

歯科以外にも、児童養護施設やスラム街の見学に行った。あらゆる階層が共存しているというのがバンコクの街を見て感じたことだった。道路を挟んで片方には高層ビルが立ち並び、もう片方にはスラム街が広がっていた。教育や経済状況から、若年層の望まない妊娠も多い。児童養護施設の子どもは、私たちを見て人見知りをする様子もなく懐いてきた。言葉が通じなくても無条件に可愛いと私は感じたし、そんな子どもを望んで捨てる大人はいないと思った。タイ経済がより豊かになり、福祉制度が整ってほしいと思った。

そして、最終日にはレインボー幼稚園に健康教育に行った。私たちは日本でこの事前準備に多くの時間を費やした。私は3歳児を担当したが、3歳児の興味・関心を惹けるような内容や媒体を考えることは難しく、また集中力を保ちながら歯磨き指導をすることは至難の業だった。

今回のタイ歯科研修13日間で、日本とタイを比較して得られた知識も多くあったし、タイの学ぶことの姿勢に触発されたことも多くあった。グローバルな目線で課題をとらえることを学び、日本の知識や技術を他国に伝えるため、また他国の知識や技術を学ぶための手段として英語力の必要性を感じた。タイで感じたことや取り組んでいきたいと思ったことを大切に、これからも精進していきたい。

IX. 学生によるレポート（英語）

Yosuke Kawai

Before I participate in this program, my main purpose of this program was to go abroad and make my new sense of values by learning about intercultural countries. I have never been abroad before. I thought that if I go abroad, I can find something new and new sense of values. This thinking was correct and I could achieve my aim in this program.

To know about the gap between rich and poor in Thai is the most impressive for me on the point of changing my sense of values. When I arrived at Thai at first, I felt that Bangkok is as big city as Tokyo, because Bangkok has big buildings and transport facilities. But it was incorrect. A child and her mother lived on the road in front of the hotel. I visit at community where poor people live in the program. There were a lot of wild dogs, bugs. Smell was not good. The environment was not enough hygienic. Another day, I visit at an orphanage where abandoned children live. I learn that 15 children are abandoned by their parents in a day in Thai. I had an opportunity playing with the children. Every child needed love. As soon as they find us, they came to us and asked for hug. These events are not seen in Japan. I thought that I understand there are many countries which have poor people and many wars by news on the TV and books. But the impression I could felt by experiencing was different from only watching. Understanding social phenomenon completely may be difficult but It is dangerous not to doubt that I understand by only watching news and reading books.

I realized that I'm poor at speaking and listening English through this program. I have studied English, since I was a junior high school student. I misunderstood I'm good at English. All I could do was trying to listen to English. I tried to speak but Thai students can't understand what I want to say. When I debate with Thai students, I couldn't exchange opinions enough. After that, Thai students talked to me positively and they guided me many places. Then, we become friends. It was benefit for me to realized that my English skill is not enough. I will communicate with Thai friends more and try to study English harder.

I could understand about affairs of dentistry in Thailand through the communication. The facilities in the Chulalongkorn university are nearly same as Japan's. The level of dentistry seemed high. I could learn about what is different from Japan, what is the same. I will make good use of this, when I think about Japanese dentistry and I study.

Like these, there are many things, if I don't go abroad. So I could understand that it

is important to think about abroad in this program. I could realized that I don't know about Japan at the same time. I think it is better to challenge new things and experience many things. Then, in the future, I would like to become great dentist.

Ruka Satoh

My main object in this program was to communicate with Thai dental students. I had been anxious about talking because of my poor English ability. However I could make friends with Thai students naturally, for we had something in common; generation, majoring in dentistry. I will keep in contact with them hereafter. In addition to this large harvest, I obtained many things. Especially I was impressed by these three things.

Firstly, visit to the poorest community in Bangkok. Smell, sound, obscurity, narrowness and fear amazed me. Big dogs were barking, carcasses of cockroaches were there, many insects were flitting, dirty water drowned way, inhabitants gazed at me. I was terrified and forgot everything except I desired to leave.

I was puzzled about why those people live there and how they can stand living there from the womb to the tomb rather than I thought of helping them like as MSF. Some people welcomed us, but I was so puzzled that I couldn't accept it. By visiting this community, I rediscovered myself.

Secondly, visit to a baby home. Almost all of children in the facility were abandoned because their parents were teens or poor. I felt sorry about them, and they made me consider about Thai society as well. Visit to the poorest community before visit to this facility helped me to understand the problem, abandoned children.

We played with children of three years old in the facility. They asked us to hold them. They were cute. I thought they might nestle up to their mother if they had not abandoned.

Each Thai people have ID number. However, abandoned children have different ID number. A staff said that they campaigned against this. I agreed that.

Lastly, differences between Thai and Japanese dental students. I talked with dental students of Chulalongkorn University (CU) and I learned some differences. They begin PBL and operative practice in the 3rd year. They begin clinical practice in the 4th year. They research from the 4th year to 6th year. Sometimes they went to laboratory weekends. So they seldom have a part-time job or belong to a club.

Is Thailand superior to Japan? It is not necessarily so because the states are difference between Thailand and Japan. For example, in operative practice CU students don't learn inlay but amalgam. In clinical practice, CU students should write an outline seat per a patient. A picture of teeth is on that seat and students add picture of dental caries or other problem. And then, teachers checked it. This is good idea. Thanks to the outline seat, CU students in the 4th year can treat patients, I think. However, in TMDU, almost all of patients who students treat are persons of advanced age. Moreover patients pay same fees whether students treat or dentists though in Thailand fees are difference. So it seems impossible for TMDU students treat patients in the 4th year. But it is true that Japanese dental students do less clinical practice than Thai.

In addition, there is unique system. In Thailand, dentists who have graduated from public universities should work in rural area. Persons who pay about 1,200,000 yen will be excused from this duty, but most students choose working. Considering Thai dentists' salary, 1,200,000 yen is not expensive. If you choose pay, insurance you and your family carry will change and doctor's fees will become high and you can't take other services such as education expenditure for your children. Besides there are many difficult case in rural area, so you will learn a lot if you choose working.

Hiromichi Ishiwata

In this overseas training, I had various precious experiences, such as an inspection of the university of Thailand, an exchange with the college student there, and an inspection of the local dental care institution.

First, I talk about experiences in Chulalongkorn University. Chulalongkorn University was a university of the highest peak in Thailand, there were many excellent students, their consciousness to study was also high, and I was stimulated very much as a college student of the department of dentistry of the same age. In a retreat, although we debated with them by the theme "the curriculum of the ideal department of dentistry", the capability of their English was very high and there was many scenes where we couldn't communicate well. I was disappointed at the low level of my English capability compared with them, however I thought that I would improve my English ability. Moreover, I hear that they start to treat patients from a fourth grader, so I who had not studied clinical subjects fully yet was shocked at that. And they performs clinical training also out of the university, for example, the dental treatment in a disabled person institution, a dentistry health guidance in an elementary school of the area and so on. I think that it is important

for us to perform these trainings in order to become better dentist, and this curriculum should be taken in also to my university.

Second I talk about experirnces in SWU. In this university, we have interchanged not only with the student of the department of dentistry but with the student of the Japanese language department. The students of the Japanese language department could speak Japanese more than my imagination, and we discussed the culture and environment of our own country mutually. Since they spoke not only Japanese but English, I felt the height of the level of the English education of Thailand also here. They wished to take up work of an airport or trade relationship in the future, and I got interested that how many those who can speak Japanese are needed in Thailand. I hear that they have an opportunity to come to Japan, so I am pleasure.

Yuki Taniguchi

The strongest impression of this program was ‘Retreat’ in Rayong with students of Chulalongkorn University. We made some groups which have both University students, and discussed the ideal dental school curriculum. In my group, firstly we introduced our own school curriculum each other, then talked about the ideal curriculum. Students of CU all were good at English and they could speak everything they wanted to say. I felt the big gap of English ability between students of CU and me. The content of this group work was very difficult for me and it was hard to listen to, speak English and follow the content of discussion. But I’m sure we could be friendly each other through this group work and we had a dinner together a few times. At retreat night, we had ‘culture night’ program, and students of CU showed us Thai traditional dance and taught Thai kids’ playing to us. We showed Bon Dance and Japanese Tea Ceremony.

Returning to Bangkok, we went to Pathumwan district, which is a community of poor people, and walked around there and listened to explanation by staff of Health Care Center. I was surprised at that situation and it was very shocking. I think it was worth to see the situation like that. If I go to Bangkok for sightseeing, I never see this, I think. Poor people live in very small and bad smell room, and I felt the gap between the rich and the poor in Thailand because there is no place like that in Japan. I heard some volunteers go there regularly and I think it is good. In Pathumwan district there are about 1,000 people and the number of the communities like this is more than 10 in Thailand. The number of the poor is totally about 43,000. It is difficult to change this

situation.

When I saw the clinic of Srinakharinwirot University, there were about 50 dental unit each department, but the number of patients is small and most units were empty. I thought it was like wasting money. On the other hand, the clinic of CU also had many dental units but almost all of them were used for treatment.

Students of faculty of humanity of SWU, who study Japan, spoke Japanese fluently, knew about Japan very well and seemed to like Japan.

On the last day of this program, we went to Rainbow kindergarten, which is for Japanese who lives in Bangkok, and taught health and tooth brushing by using hand-made pictures or other items. I did it for 4 years kids. It was first time for me to do health education and tooth brush instruction, so I had gotten nerves a little. But I got relief because they listened to us quietly. This experience was good opportunity to know how much they can talk or understand the word.

Yoshiki Tokunaga

Looking back on this training to come back to Japan, I think it was really good to participate in this program. Before this training, I was studying without a clear goal in particular and I was studying somehow only just to pass the examination. I know English is always necessary in the future, but did not start anything because I have never troubled especially in everyday life. So, I applied for this overseas training since I think it might be an opportunity to change something if I participate in this training.

In this training, it is countless what I got. Among them, a particularly valuable experience I think is that I could make friends with foreigners. It is difficult just to travel abroad on your own and it may be possible only in the opportunity like this. You will get a feeling that you'd like to know them more when you make friends. However, due to low level of my English ability, I couldn't express in word what I wanted to convey. It was frustrating. I think it would be disappointing that you can't understand what your friends are trying to convey. These experiences told me a need for English more than anything and it led to the motivation to learn English more. In addition, the friends also are students in the same faculty. Students of Chulalongkorn University start clinical practice since fourth year. It also gave me a stimulus.

One of the impressive programs is to discuss the curriculums of each other and

think about an ideal dental education in a small group of Chulalongkorn University students and Tokyo Medical and Dental University students on the third day of the training. I had a hard time because it was first time for me to debate with foreigners. In this group work, I realized a lack of knowledge for our curriculum more than anything. I couldn't answer well when I was asked why you have to study a subject, why to study at that time. From this experience, I was aware that how I had been studying with passive attitude so far. So I have decided to study lots not only with the curriculum just given but also with active attitude.

I think that this training became the opportunity to realize what isn't enough now to myself and how I should spend the college life of rest. This experiences will always helpful to become a good dentist in the future. I should connect what I got this time to the future in some way. Last but not least, I'd like to express my gratitude for teachers who had supported in various ways through this training, students who took part in the training together, people in Thailand and everyone who were involved in this program. Thank you very much.

Yuki Shinozaki

In Thailand dental training program of 13 days, I had a lot of experience such as interaction with students of Chulalongkorn University(CU), Srinakarinwirot University(SWU), visit hospitals and schools, the general dental clinic, dental health education Japanese kindergarten in Thailand. Training program was full, so I learned and thought something every day. It was a good opportunity to broaden my horizons.

A program in CU over 7 days is I learned especially. In the retreat, I discussed the ideal dental education with students of CU and I was able to know about the difference in dental education in Thailand and Japan. I also learned that there are dental nurses in Thailand , they can treat such as the resin filling, tooth extraction in the study of two years. In Japan, dental hygienists specialize prevention, dentists specialize treatment, but it is not so in the case of Thailand. So I thought about things to improve and good points of each.

In addition, in a tour of student training, I was able to visit Operative clinic and Periodontal clinic. Tools and flow of medical care was almost the same as Japan, there were differences, for example the edge of the bracket and vacuum that the operator touched were wrapped, patient as well as the operator wore glasses when scaling, patients handed the vacuum chip. I heard that main reason the patients wear glasses

like sunglasses is that the light is strong. But it was felt to be very important in order to protect from fine materials, scale and water. Furthermore, the unit is separated from each other, like a private room, so that the privacy of patients can be guarded. By learning them, I felt the importance of knowing the dental situation overseas.

In the tour of the poor community, I felt strongly the gap between the rich and the poor that I've never seen in Japan. By seeing the poor living in an environment with poor hygiene, I thought that it was very thankful to lack for nothing. It is hard for people of the community to go to the dentist's office, so they were taking the system that the students had a checkup once a month at school, and they were introduced to the health center if they had a need of treatment. Furthermore, they had a time to brush their teeth after lunch. I realized that the emphasis on prevention in this way was important.

In the health education I did last day, I took charge of the class of 5-year-olds. We did the drama to teach how important it was to take breakfast, to the hand-washing, gargle, and to brush their teeth and tooth brushing instruction. I felt the reaction of the children well, they listened intently, but we taught what they knew. So we had to select topic of high level a little more. I felt the difficulty of health education that appropriate guidance was different depending on the environment of life and age.

In addition, through the exchange of Thai students, I was acutely aware of the importance of English, the poorness of my English. I was able to communicate in poor English, but it is impossible to convey the things that I want to convey fully. So I often felt frustrated. I felt that English is very important in the field of international exchange, so I want to improve my English even a little by continuing to study English.

Through this training, I learned a lot of things like this. I knew the goodness of Japan and Thailand by interacting with Thai students and I felt the importance of international exchange. It was really good to participate in this training because I was able to have a valuable experience to be food for myself. Finally, I would like to express my appreciation to teachers who gave us this opportunity and all the people who supported us in this training.

Mao Ogawa

In this overseas training, I had a lot of precious experiences.

We had a relationship with the students in Thailand. We worked in groups, went sightseeing and went out to eat together. First, I was surprised that they could speak English well. I felt that I didn't have the ability to do. I knew what I would like to say, but I couldn't say it in English. I felt that I have to study more, but I also learned that I could communicate if I try to convey. Because when I tried to speak, they helped me every time and I was able to convey my ideas. I thought that it is important to try to talk without fear of being wrong. I was deeply moved by their kindness. And the next time they come to Japan, I would like to give back.

We visited the university hospital and dental facilities and learned about dentistry in Thailand. I got the impression that the university hospital was not much different from Japan. Thailand has faced a shortage of dentists, people called dental nurse has been active. Dental nurse is a profession close to the dental hygienist of Japan. I learned that they were responsible for part of the treatment that dental hygienist couldn't do. I thought that health promotion activities were necessary in Thailand. As a dental hygienist in Japan, I thought that we were able to do activities abroad and also teach people doing in a foreign country. And we're able to contribute to the health promotion of the foreign countries.

When I visited the community of poor people, I felt the narrowness, the darkness, and smell of the area. I got a strong impression which I couldn't get from the book or the video. I didn't think that I could understand the entire the present situation. But I felt that there was a meaning to see with my own eyes. We thought about what kind of support they required. I thought that it was a good opportunity to broaden our outlook.

We visited the dental clinic for Japanese. And we help in the seminars by the teachers in TMDU. I learned that the activities abroad. In seminars, there were many questions and consultation in the field of pedodontics and orthodontics in particular. I felt that Japanese living abroad required the place to get information and consult specialists. I was charge of tooth brushing instructions and timekeeper. I could do tooth brushing instructions only one time. I did no more than do guide how to brush his teeth. If there is an opportunity, I would like to assess children's condition and guidance, for example, about how to get snacking.

At Rainbow kindergarten, we conducted health education for 3 to 5- year-old-children. We received guidance in Thailand and in Japan. We have repeated practice. My group

was charge of 4-year-old class. We made a picture-story show on the theme of cleanliness before the tooth brushing instructions. I thought children concentrated in the picture-story show, and replied to questions well. In the tooth brushing instructions time, one student guided three or four children. And I proceeded in front. The children followed our instructions and brush their teeth hard. So I thought that we could proceed smoothly. In this health education, I made good use of my experiences and learned new. If there is an opportunity, in view of the living environment, I would like to consider a more meaningful health education.

Through this training, I am pleased that I have become friends with Thai students and dental students in TMDU. I will keep up a regular correspondence with them. And I would like to exchange opinions.

Finally, I would like to thank the teachers and the staffs for their guidance.

Kie Hirayama

I had Inter-University Exchange Program in Thailand for 13 days this time. I visited various facility, such as Chulalongkorn Univesity, Srinakarinwirot University, and rainbow kindergarten.

This program for seven days in Chulalongkorn University was most substantial. First, I visited the university. I toured one student who is doing clinical training in Chulalongkorn Univesity Dental Hospital. I saw treatment of amalgam restoration in Operative clinic. Almost amalgam isn't used in Japan, therefore I had never seen treatment of amalgam restoration. The mercury contained in amalgam has influence of human body and environmental pollution, and there are fault that it is necessary to be careful when in use. However, amalgam restoration has good point like that is cheap and easily operation .From this, it was able to know about the difference in the dentistry situation of Japan and Thailand. I felt that a social background such as area and difference between wealth and poverty influence the difference in dental treatment. I had the retreat program in Rayong during the weekend, discussion about "the dentistry education of an ideal" was performed and it became the opportunity to know the curriculum of the faculty of dentistry of a mutual university well. From this discussion, I thought that need the dentist who can work by clinical soon in Thailand. Thus, the social background has had big influence only on medical treatment but on

education, and I thought dentist image to seek by country is different. Furthermore, we introduced each other culture at the cultural night. It was able to know about mutual culture by this event. And it was the good opportunity to take communication using English also with the student of Thailand. However, I realized the low level of own English capability, and it has led to the motivation to continue learning English.

Next, I learned about the community health and school health of Thailand. In community health center, I visited the poor community and looked the living environment. That was dark and air had also stagnated. I felt that it was difficult to live healthily here. I thought that it is more important to live one day healthily than health of dentistry, It is necessary for dental professionals to have a broad field of view, and to support the health of the people.

In addition, I visited various institutions, such as the day-care center for children and the dental clinic for disabled person, and heard about the present condition of Thailand.

I had interchange with student of the faculty of dentistry student and Japanese language at the Srinakharinwirot University. Although it was a period very short , I visited Ayutthaya and a market with SWU students and was able to know with the culture and history of Thailand.

Finally it is the health education in a rainbow kindergarten. I performed health education for children class of 5 years-old. The health education to the children who live in a different environment from Japan was the first time, and I was uneasy. Therefore, we had collect information by listening to how the local in advance. Furthermore, it was able to prepare in cooperation with the student of the group, and was able to enjoy with children on the day. From this experience, I think the many informations of people who are the targets of health education leads to a success of health education.

I was the first overseas stay this time. Therefore, I was unease very much. However, I was able to deepen exchanges with the Japanese student and the student of Thailand could be promoted, and I passed a substantial days. I finished The long exchange program of 13 days and it was able to know about a life, the culture, and the dentistry of the Thailand. Moreover, in order to acquire various knowledge and wide view, it was thought that communication in English was indispensable. I would like to make use of this experience, friend, and subject .

Fumika Morishita

I learned Thai dentistry, culture, and social conditions, and I could see Japan objectively

by comparing with Japan for 13 days in the Thailand dentistry training program.

First week I interchanged with the department-of-dentistry student of Chulalongkorn University. The first day I learned about the history of Chulalongkorn University and had the school tour. The second day I left Bangkok for Rayong for Retreat at the Purimas Beach Hotel. In Rayong we had the discussion about ideal of dental education in English. I was so disappointed that I couldn't speak English well. Although our Japanese study general English in compulsory education, I realized I didn't come out immediately what I wanted to tell in English. The CU student had a good skill speaking English. So I realized the "barrier of language" which is an obstacle to communication. Actually I thought the frequency speaking English made the difference of language skill. But the important thing is to speak English with confidence. Even if the culture of Japanese "shame" is good thing in Japan, I thought it acts an obstacle in many cases when we go abroad. At the night we had cultural-exchanges meeting. Our Japanese introduce tea ceremony and a Bon festival dance. I learned both Thai and Japanese culture.

Hospital tour and laboratory in CU I thought that the way of dental treatment and the form of training were much Japan as Japanese. And I thought there were the differences between Thailand and Japan by national economic and culture and so on, too. For example, the dental treatment using amalgam for caries is hardly used in Japan now. In Thailand it's still used and CU students have laboratory of amalgam filling. Because patients can treat cheaply as compared with resin filling. And there were great differences that the views about orthodontics treatment. When I walked around in Bangkok, I saw many people who having orthodontic bracket and wire. In Thailand, having the orthodontic bracket and wire means that "I'm rich". Therefore, there is a beauty-treatment clinic for equipping with bracket and wire without dental treatment. The ideal of dentistry and the will of patients are different in each country. So I would like to know that and learn the enough knowledge and technology.

We also saw the orphanage and the slums. It was the first impression of Thailand that all classes lived together. There were many skyscraper on, on the one hand, there were slums. In Thailand, many younger get pregnant although they don't want because of education or economic conditions. The children in the orphanage wanted us to hug and pick up without any shy. Even if I could not understand their language, I thought they were very lovely. And I thought there wasn't any adult who wanted to abandon his or her lovely child. I hope that the economy of Thailand become richer and the welfare system are good.

We went to the "rainbow kindergarten" for health education on last day. We spent much time preparing for this in Japan. I took charge of the 3-years-old children. It was very

difficult to think and to make the story for having their interest and concern. The most difficult thing was to carry out tooth brushing instruction for those who don't have concentration.

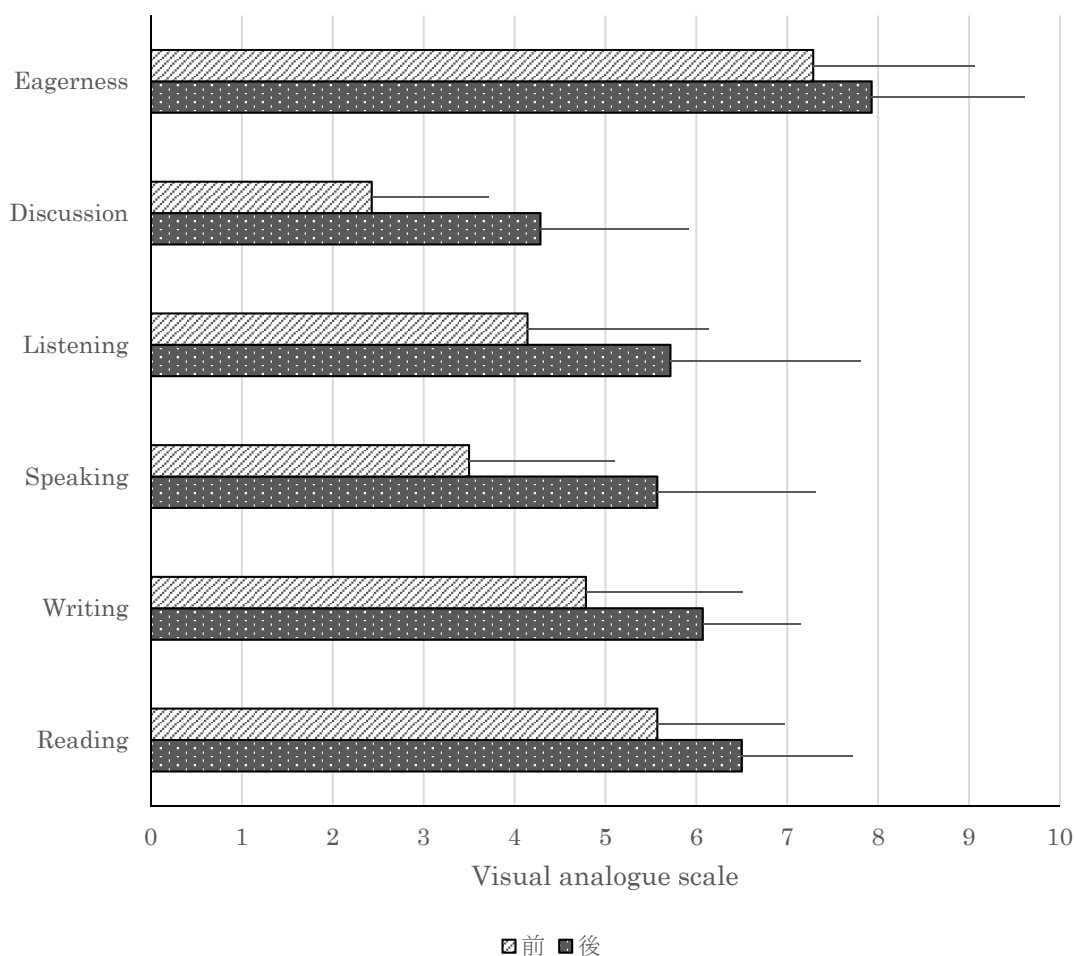
I learned knowledge by comparing Japan with Thailand for this 13 days. I would like to have think with a broad outlook in order to tackle global task. And I would like improve my English skill to study the knowledge and technology of a foreign country and to communicate with foreigner. I will make an effort with having feeling and thinking in Thailand from now on.

IX. アンケート結果

本研修に参加した東京医科歯科大学歯学部歯学科 4 年生 10 名および口腔保健学科 4 年生 4 名に対し、自身の英語能力や研修プログラムに対する要望、東京医科歯科大学およびチュラロンコン大学の教育・研究・医療レベルに対する評価、異文化理解度に関する意識調査（添付資料 4）を行った。回答はビジュアルアナログスケールを採用し、10 段階の評価で行った。その結果を以下に示す。

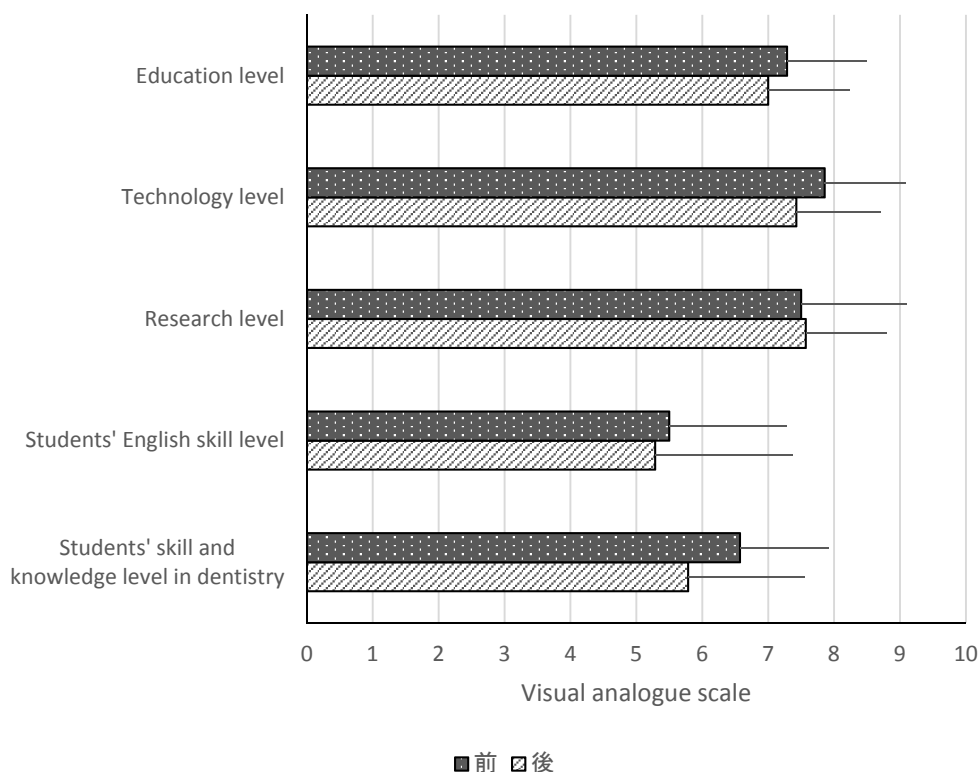
1. 英語能力の自己評価

全ての項目において研修後で自己評価の平均が上昇しており、「学習意欲」以外の項目では有意差（Student の T 検定、有意水準 5%）が認められた。これは、リトリートにおけるグループディスカッションや学生間交流を通して、タイ人学生との英語でのコミュニケーションにおいて自分の英語が通用することを経験したこと、短期間ではあったが様々な形で英語に触れる本研修によって、英語に対して「慣れ」が生じ自分自身の「適応」を感じることで、自己の英語能力に対する自信をつけた、と考えられる。



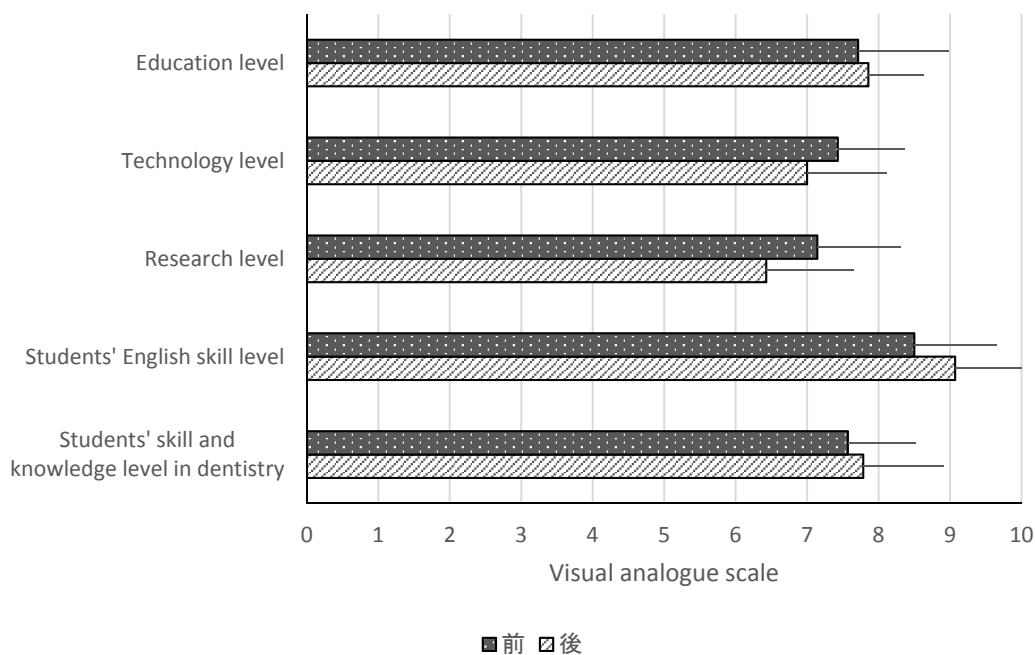
2. プログラム参加学生による東京医科歯科大学の評価

東京医科歯科大学の学生による大学の評価は全ての項目において 7.0 以上と高く、研修前後であまり変化がなかった。一方で、学生の客観的能力評価においては、英語能力に関しては研修前後で大きな変化が見られなかったが、学生の歯科に関する技術や知識量における評価において低下傾向が認められた。これは、タイの同世代の学生と接し、彼らに比べ知識・技術ともに後れを取っていることを認識したため、相対的に低下したことが考えられる。これは、CU のカリキュラムが本学と比べ早いペースで進んでいることに起因すると思われるが、本研修のように、同年代の歯学生と接することは、自分たちの知識や技術に対し客観視することのできるいい機会になることがわかった。しかし、どの項目においても研修前後において有意差は認められなかった。



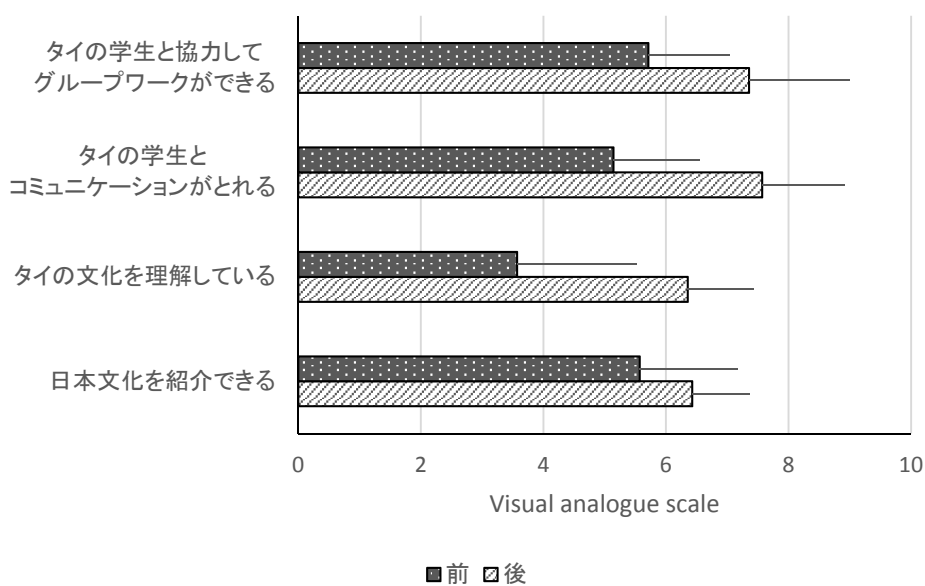
3. プログラム参加学生によるチュラロンコン大学の評価

東京医科歯科大学の学生によるチュラロンコン大学の評価は、研修前にくれば研修後において研究及び技術において若干の低下が認められた。一方、チュラロンコン大学の学生の英語能力・歯科に関する技術や知識レベルについての評価は、研修後いずれも上昇しており、英語能力の評価に関しては有意差が認められた。



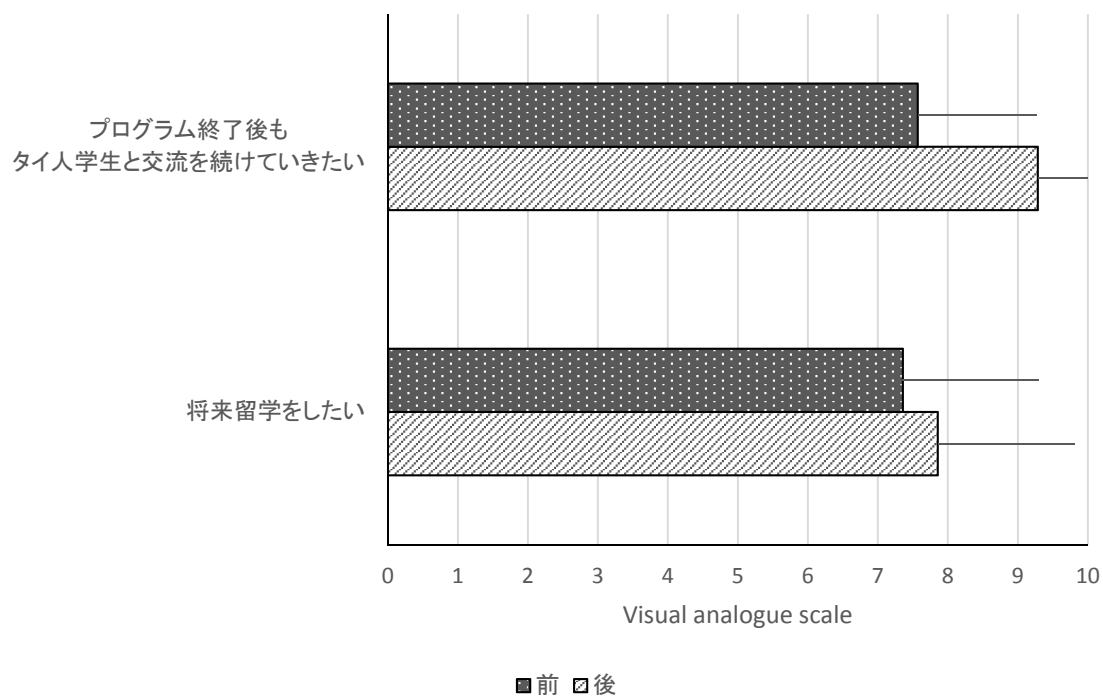
4. 異文化理解力の自己評価

異文化理解力に対する自己評価については、いずれの項目についても、研修前後で大きく上昇していた。タイ文化の理解・タイ学生とのコミュニケーション・タイ学生との共同作業の自己評価においては、研修前後で有意差が認められた。本研修に参加することで、これまで経験することのなかった異文化の学生との交流や共同作業を経験し、学生らの思考が幾分か外向きに移行し、異文化に対し理解できるよう順応したのではないかと予想される。一方で、日本文化の紹介に関しては、研修前後で6.0程度とあまり高くはなかった。



5. その他の項目

プログラムの参加前後で、将来の留学に対する意欲は若干の上昇がみられた。一方、タイの学生との交流を続けていきたいと感じる度合いが非常に強くなったことが明らかとなった。短期間であったがタイ学生との交流を通じて、彼らとの友好関係が深まったことを示している。



X. タイ人学生のアンケート結果（日本文化紹介プログラム）

回答人数 31 名（参加者全員分）

評価項目	満足度					平均点
	大変満足 (5)	満足 (4)	普通 (3)	少々 改善 点あり (2)	改善 点あり (1)	
知識・経験の面						
1. 知識	0.81	3.1	0.19	0	0	4.1
- 日本語						
- 日本文化	1.29	2.97	0	0	0	4.26
- 日本の大学生生活	0.65	2.45	0.77	0	0	3.87
<u>参加以前の知識</u>	0.48	2.58	0.77	0	0	3.84
<u>参加後の知識</u>	1.13	3.1	0	0	0	4.23
2. タイと日本の大学生が情報交換 ができる機会になった	2.58	1.94	0	0	0	4.52
3. 疑問に思ったことが明らかにな った	3.39	1.29	0	0	0	4.68
4. 時間、期間が適切である	0.32	2.84	0.68	0	0	3.84
5. プログラム全体の満足感	1.13	2.97	0.1	0	0	4.19
6. 今後も行ってほしい	3.39	1.29	0.06	0	0	4.68

感想のまとめ

- ・午前中のほうがいい。みんな都合がいいから。
- ・プレゼンテーションの時間がもっと長いほうがよかった。
- ・とてもいいプログラムで、定期的に毎年行ってほしい。後輩にも同じような経験をしてほ

しい。日本人と交流ができて役に立ったと思う。ほかの学年の皆さんにももっと活発に参加してほしい。

- ・おもしろかった。

添付資料 1

日本語—Thai 基本会話

Japanese	English	ความหมาย
おはようございます	Good Morning	สวัสดีในตอนเช้า
Ohayougozaimasu		sa was dee
こんにちは	Good Afternoon	สวัสดีในตอนสายๆ ถึงเย็น
Kon'nichiwa		sa was dee
こんばんは	Good Evening	สวัสดีในตอนค่ำ คือพระอาทิตย์ตกดินไปแล้ว
Konbanwa		sa was dee
すみません	Excuse me, Sorry	ขอโทษ
Sumimasen		kor tod
ありがとうございます	Thank you	ขอบคุณ
Arigatougozaimasu		korb kun
さようなら	Good Bye!	ลาก่อน
Sayounara		la kon
はい/いいえ	Yes / No	ใช่/ไม่ใช่
Hai / Iie		chai/mai chai
お疲れ様でした		บอกกับผู้ร่วมงานหลังเลิกงาน
Otsukare sama deshita		なし
ご馳走さまでした	Thank you for the meal	ขอบคุณเวลามีคนเลี้ยงอาหาร
Gochisou sama deshita		なし
おいしいです	Delicious	อร่อย
Oishiidesu		a roi
お名前は?	What is your name	ชื่ออะไร
		chue a rai
私は、_____	My name is _____	ฉันชื่อ _____ ค่ะ(ครับ)
Onamae ha _____		chan chue_ka(kab)
Watashi Wa _____ Desu		
お国は?	Where are you from	มาจากประเทศอะไร
Okuni wa		ma chak pra ted a rai
どこからですか?	Where are you from	มาจากประเทศอะไร
Doko Kara Desuka		ma chak pra ted a rai
タイからです	I'm from Thailand	มาจากประเทศไทย
Tai Kara Desu		ma chak pra ted thai ka (kab)
お元気ですか?	How are you	สบายดีหรือคะ/ครับ
Ogenkidesuka		sa bai dee mai ka (kab)
はい、元気です	I'm fine	สบายดีค่ะ/ครับ
Hai, Genki Desu		sa bai dee ka (kab)
_____はどこですか	Where is _____ ?	_____ อยู่ที่ไหนคะ/ครับ
_____ Wa Doko Desuka		yuu tee nai ka (kab)
トイレはどこですか	Where is the <u>restroom</u>	ห้องน้ำอยู่ที่ไหนคะ/ครับ
Toire Wa Doko Desuka		hong nam yuu tee nai ka(kab)
電話はどこですか	Where is the <u>telephone</u>	โทรศัพท์อยู่ที่ไหนคะ/ครับ
Denwa Wa Doko Desuka		to ra sap yuu tee nai ka(kab)
_____に行きたいです。		อยากจะไปที่..
_____ Ni Ikitai Desu		yak ja pai tee...
これはいくらですか?		ราคาเท่าไรคะ/ครับ
Kore Ha Ikura Desuka		ra ka tow rai ka(kab)
値引きしてもらえますか?		ลดราคาหน่อยได้มั๊ยคะ/ครับ
Nebiki Shite Moraemasuka		rot ra ka noi dai mai ka(kab)
食堂	Cafeteria	โรงอาหาร
Shokudo		rong ar han
駅	Train station	สถานีรถไฟ
Eki		sa tan nee rot fai
コンビニ	Convenient store	ร้านสะดวกซื้อ
Konbini		se ven
自動販売機	Vending machine	ตู้กดน้ำ
Jidouhanbaiki		tou kot nam

0 zoon	20 yee sib
1 hnung	30 sam sib
2 song	40 see sib
3 sam	50 haa sib
4 see	60 hox sib
5 haa	70 jed sib
6 hox	80 pad sib
7 Jed	90 kao sib
8 pad	100 hnung roi
9 kao	150 hnung roi haa sib
10 sib	1000 hnung pan
11 sib ed	10000 hnung hnum

Alphabet (Hiragana) Pronunciation การออกเสียงตัวอักษรภาษาญี่ปุ่น

あ	い	う	え	お
a	i	u	e	o
อะ	อิ	อุ	เอะ	โอะ

か	き	く	け	こ
ka	ki	ku	ke	ko
คะ	คิ	คึ	เคะ	โคะ

さ	し	す	せ	そ
sa	shi	su	se	so
สะ	ชิ	สุ	เซะ	โซะ

た	ち	つ	て	と
ta	chi	tsu	te	to
ทะ	จิ	ตึ	เทะ	โทะ

な	に	ぬ	ね	の
na	ni	nu	ne	no
นะ	นิ	นุ	เนะ	โนะ

は	ひ	ふ	へ	ほ
ha	hi	fu	he	ho
ฮา	ฮิ	ฟู	เฮะ	โฮะ

ま	み	む	め	も
ma	mi	mu	me	mo
มะ	มิ	มุ	เมะ	โมะ

や		ゆ		よ
ya		yu		yo
ยะ		ยุ		โยะ

ら	り	る	れ	ろ
ra	ri	ru	re	ro
ระ	ริ	รุ	เระ	โระ

わ		を
wa		wo
วะ		โวะ

きゃ	きゅ	きょ
kya	kyu	kyo
เคียะ	คิ๋ว	เคียว

しゃ	しゅ	しょ
sha	shu	sho
ชะ	ชิ๋ว	โชะ

ちゃ	ちゅ	ちょ
cha	chu	cho
จ๊ะ	จ็	โจะ

にゃ	にゅ	にょ
nya	nyu	nyo
เนียะ	นิ๋ว	เนียว

ひゃ	ひゅ	ひょ
hya	hyu	hyo
เฮียะ	ฮิ๋ว	เฮียว

みゃ	みゅ	みょ
mya	myu	myo
เมียะ	มิ๋ว	เมียว

りゃ	りゅ	りょ
rya	ryu	ryo
เรียะ	ริ๋ว	เรียว

が	ぎ	ぐ	げ	ご
ga	gi	gu	ge	go
กะ	กิ	กู	เกะ	โกะ

ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
za	ji	zu	ze	zo
ซะ	จิ	ซุ	เซะ	โซะ

だ	ぢ	づ	で	ど
da	ji	zu	de	do
ดะ	จิ	ตึ	เดะ	โดะ

ば	び	ぶ	べ	ぼ
ba	bi	bu	be	bo
บะ	บิ	บุ	เบะ	โบะ

ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
pa	pi	pu	pe	po
พะ	พิ	พ	เพะ	โพะ

ん
n

ตัวสะกด(ง, น, ม)

Example/ตัวอย่าง

うめ	UME	อุเมะ
でんわ	DENWA	เดนวะ
でんしゃ	DENSHA	เดนชะ
びょういん	BYOIN	เบียอิน
たい	TAI	ไท

ぎゃ	ぎゅ	ぎょ
gya	gyu	gyo
เกียะ	กิ๋ว	เกียว

じゃ	じゅ	じょ
ja	ju	jo
จ๊ะ	จ็	โจะ

びゃ	びゅ	びょ
bya	byu	byo
เบียะ	บิ๋ว	เบียว

添付資料 2



Undergraduate course

- 6 years course
- First 3 years
 - Basic sciences
 - Medical knowledge
 - Dental knowledge
 - Laboratory practice




- Last 3 years
 - Dental knowledge
 - Clinical practice






Low living cost country



100฿ = 25฿ x 4





添付資料 3

現地滞在情報

1) 生活全般

気候

気候はモンスーン気候で、滞在期間は雨季です。平均気温は 30 度前後で、必ず毎日雨が降ります。必ず雨具を持っていくこと。また、屋外は蒸し暑いですが、ビル内は冷房が強い場所があるので、羽織るものを準備しましょう。

通貨

タイの通貨はバーツ Baht です。為替は **1 Baht = 約 3.3 円** (H25.7.1 現在)
両替は現地で行ったほうがレートがいいので、到着後に行うことを勧めます。
一食大体 100 B くらいで十分に食べられます。

チップ

タイはチップを強要しない国なので、気持ちで渡します。例えば、ホテルでも 20 バーツあれば十分。お金の価値感からすると、1 バーツが日本の約 10 円と考えて下さい。

タイ語のあいさつ

タイ語には男性形と女性形があります。

こんにちは：サワディー・クラップ (男)、サワディー・カー (女)

ありがとう：コップクン・クラップ (男)、コップクン・カー (女)

私：ボム (男) ディチャン (女) など

また、ワイ (合掌) をされたら、必ずワイを返して、下さい。(あいさつを返す)

国歌斉唱

タイでは 8 時と 18 時に公共施設、スカイトレイン (BTS) 等で国歌が流れます。この時は、静止して下さい。(国家への尊敬)

尊敬されている王室・目上の人

王室の悪口は禁句。また、人前で、他人の悪口を言わないで下さい。(面子が大切)

子供の頭をなでない

タイでは子供の頭に仏が宿っていると信じているので、頭をなでないで下さい。

僧侶

僧侶は尊敬されています。女性は僧侶 (法衣) に触ってはいけません！また、BTS などでは、子供、妊婦、年寄、僧侶には、席を譲ること！(善行は、自らが徳を積むため)

お寺での服装

お寺には、ミニスカートやタンクトップなど肌を出した服では入れません。巻スカートを貸してくれるお寺もあります。(仏への敬意)

小銭の用意

普段の生活は、大きくて 100 バーツ札。タクシー、BTS や大学の食堂では、100 バーツ

ツ以下の50バーツ、20バーツのお札を使います。タクシーに乗る時は、100バーツ以下のお札、コインを用意して下さい。お釣りを持っていないことがあります。

帽子、サングラス

日差しが強いので、帽子、サングラスを持参した方がいいです。

2) 一般犯罪

スリ、ひったくり、置き引きに注意

タイの日本大使館に届けられた犯罪被害数は、10年間、世界中の大使館の中でトップです。特に、スリ、ひったくり、置き引きには注意して下さい。

声をかけてくる見知らぬ人に注意

睡眠薬を飲まされ、モノをとられた例、贋金を両替させられた例があります。

3) 交通安全

オートバイ、特にモーターサイ（オートバイタクシー）に注意

タイでは、車線関係なくオートバイが走ります。歩道も走ります。道を横断するときは左右を確認してください。モーターサイには乗らないこと。

タクシー、バスは客の乗降を確認しないことがありますので、注意

タクシーは、ドアの開け閉めは、自分で確認して下さい（手動）。バスは出来れば乗らないこと。乗るときは、特に降りる時は前後を確認して下さい。タクシーは、メーター・タクシーを選んで乗車すること。流しているタクシーがいいでしょう。

4) 健康管理

飲料水

水道の水は飲めますが、硬水です。ホテルの部屋には、無料のミネラルウォーターが2本あります。飲料には、ミネラルウォーターを勧めます。ホテルの前のコンビニにも売っています。600ccで7-10バーツ。

ソムタム（青いパパイヤサラダ）

タイ料理店でよくソムタムが出ます。ソムタム・プララー（生の川蟹入りサラダ）は、寄生虫がいる場合があるので、食べる場合はパパイヤだけのソムタム・タイを。

生ガキ

生の牡蠣は避けて下さい。水が汚れているので、腹痛を起こすことが多いです。

5) その他

ホテルのエレベーター

部屋のカードキーを階数の下にさして、サインの色が変わったら階数を押すと上がります。下りはそのままボタンを押すとロビー階で降りられます。

現地緊急連絡先（携帯電話）

小野田 084-875-2630

クイーンズパークホテル（モンさん：日本語可） 081-842-7511

添付資料 4

研修前

大学の世界展開力強化事業「東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム」

海外研修事前アンケート

東京医科歯科大学 国際交流センター
大学の世界展開力強化事業 運営事務局

アンケートのお願い

平成24年10月より、本学では文部科学省の大学の世界展開力強化事業「東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム」が開始されました。本プログラムは、東京医科歯科大学、タイのチュラロンコン大学、インドネシアのインドネシア大学、ベトナムのホーチミン医科薬科大学の4大学による教育交流プログラムで、質の高い大学間交流を目指しています。具体的には学生の派遣および受入れ・国際学会合等を行い、国際的にリーダーシップのとれる自立型の若手研究教育者・医療者を養成することを目的としています。このアンケートは、海外研修に参加される皆さんの現状を把握し、より良いプログラムの実施のために行うものです。是非ご協力ください。

氏名	派遣日程 西暦 2013 年 8 月 29 日～ 2013 年 9 月 10 日まで
学部・学年 1. 医学部医学科 (____ 年) ② 歯学部歯学科 (4 年) 3. 歯学部口腔保健学科 (____ 年) 4. 修士課程 (____ 年) 所属分野 _____ 分野 5. 博士課程 (____ 年) 所属分野 _____ 分野	派遣大学（該当大学を○で囲んでください） ① チュラロンコン大学 2 インドネシア大学 3 ホーチミン医科薬科大学 4 その他

<アンケートの記入例>
あなたの考えで該当する部分に○をつけてください

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

今日は暑い 全く思わない |-----| 8 |-----| とても思う

I. あなたの英語力に関して該当すると思う部分に○をつけてください。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1. 英語を読む能力 (日常生活レベル)	全くできない	-----											よくできる
2. 英語を書く能力 (日常生活レベル)	全くできない	-----											よくできる
3. 英語を話す能力 (日常生活レベル)	全くできない	-----											よくできる
4. 英語を聴く能力 (日常生活レベル)	全くできない	-----											よくできる
5. ディスカッション能力	全くできない	-----											よくできる
6. 英語学習意欲	全くない	-----											とてもある

II. 研修プログラム参加前のあなたの期待について、該当する部分に○をつけてください。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1. タイ人学生との交流	全く期待 してない	-----											とても期待 している
2. タイの文化・歴史・ 習慣を知ること	全く期待 してない	-----											とても期待 している
3. 日本の文化・歴史・習慣を 紹介すること	全く期待 してない	-----											とても期待 している
4. タイにおける医療や 歯科医療を知ること	全く期待 してない	-----											とても期待 している
5. 日本の医療や歯科医療を紹介 すること	全く期待 してない	-----											とても期待 している

III. 東京医科歯科大学に対するあなたの考えで該当する部分に○をつけてください。

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1. 教育のレベル	とても低い	-----											とても高い
2. 医療・歯科医療のレベル	とても低い	-----											とても高い
3. 研究のレベル	とても低い	-----											とても高い
4. 学生の英語能力のレベル	とても低い	-----											とても高い
5. 学生の医療・歯科医療の 技術と知識のレベル	とても低い	-----											とても高い

IV. チュラロンコン大学に対するあなたの考えで該当する部分に○をつけてください。

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1. 教育のレベル	とても低い										とても高い
2. 医療・歯科医療のレベル	とても低い										とても高い
3. 研究のレベル	とても低い										とても高い
4. 学生の英語能力のレベル	とても低い										とても高い
5. 学生の医療・歯科医療の 技術と知識のレベル	とても低い										とても高い

V. あなた自身について該当する部分に○をつけてください。

1. タイ人学生に日本の文化・歴史・習慣を説明できる	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	全くできない										よくできる
2. タイの文化・歴史・習慣を理解している											
	全く理解していない										とても理解している
3. タイ人学生とコミュニケーションを取ることができる											
	全くできない										よくできる
4. タイ人学生とのグループにおいて、協力してグループワークを行うことができる											
	全くできない										よくできる

VI. 該当する部分に○をつけてください。

1. プログラム終了後も、タイ人学生と交流を続けていきたい											
	全く思わない										とても思う
2. 将来、留学したい											
	全く思わない										とても思う

ご協力ありがとうございました